九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [083_03] 法政研究表紙奥付

https://hdl.handle.net/2324/1790473

出版情報：法政研究. 83 (3), 2016-12-15. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

# 九州大学教授　柳原正治　先生

柳原正治教授は、一九五二年七月に富山県で生まれ、一九七五年に東京大学法学部を卒業後、同大学院法学政治学研究科の修士課程、引き続き博士課程に進学し、一九八一年には同大学から博士号（法学）を授与された。同年には横浜国立大学経済学部助教授に採用され、九州大学には一九八九年四月に助教授として着任、一九九一年八月には教授に昇進された。計二七年間の九州大学勤務を経て二〇一六年三月に退職された。

柳原先生の研究領域は多岐に亘るが、その骨格は国際法の理論と現実の緊張関係に着目し、国際法史と国際法の基本原則の実態解明に迫るものである。国際法史については、『ヴォルフの国際法理論』（有斐閣）（同書のもとになった『法政研究』掲載論文は安達峰一郎記念賞を受賞）や『グロティウス　人と思想』（清水書院）は、日本の国際法史研究の新たな地平を切り開く極めて重要な研究である。さらに近年では日本を中心にしつつ「東アジアにおける国際法の受容過程」について実証的な歴史研究を積み重ねられており、その成果の一部については二〇一四年のハーグ国際法アカデミーで講義を行われている。国際法の基本原則を対象とした研究としては、戦争や領域など国際法にとって根本的な概念を対象とした多数の論文を執筆されている。また『プラクティス国際法講義』（信山社）、『国際法』（放送大学教育振興会）といった定評ある教科書をも編集・執筆されている。さらに国際法学会理事長（二〇〇九年から二〇一二年）、世界法学会理事（二〇〇五年以降現在に至る）、国際法協会日本支部理事（二〇一四年以降現在に至る）を務めるなど学会活動でも多大な貢献をなされている。

九州大学の管理・運営面で先生が果たされた貢献も極めて多大なものである。まず法学部においては、一九九四年に開始する英語による修士課程プログラム（LL.M.プログラム）、一九九九年からの博士課程プログラム（LL.D.プログラム）、二〇〇一年からのヤング・リーダーズ・プログラム（YLPプログラム）に立ち上げからご退職まで中心的な存在として従事された。さらに二〇〇一年以降は、総長特別補佐、留学生センター長、国際交流推進室長等の要職を務められた後、二〇〇四年四月から二〇〇八年九月まで国際交流・留学生担当の理事・副学長としても尽力され、九州大学全体の運営にも大いに貢献されている。

教育面では、先生のお人柄に惹きつけられて、学部ゼミには毎年多くの学生が集まった。また、大学院で先生の指導を受け、研究者としてあるいは各界の実務家として活躍中の弟子の数は少なくない。中には先生が英語プログラムで指導された留学生が多数含まれることも特筆すべきであろう。

長い間、九州大学法学部において御活躍された柳原先生が退職を迎えられるにあたり、長年のご功労に対する感謝の念を込めて本号を献じるとともに、先生の今後のご健勝とご活躍を心より祈念申しあげる次第である。